



本物の田んぼで田植え体験！

～高層団地に囲まれた秋の陽公園で小学生が田植え体験～

と き 5月14日（火） 午前9時30分～11時30分

と ころ 区立秋の陽（あきのひ）公園（光が丘2-5-2）

14日、区立秋の陽公園の水田（約500㎡）で、近隣の区立小学校3校の5年生児童が、田植えを体験した。

都会では珍しい体験を子どもたちが楽しむとともに、お米の大切さを知ってもらうことを目的に、同公園の開園（昭和63年）以来毎年実施しており、今年で25回目を迎える。

参加した子どもたちは、はしゃぎながら水田に裸足で入り、区職員の指導のもと、初めて田植えを体験した。終了後、児童たちは「田んぼはぬるぬるしていた」「収穫して食べるのが楽しみ」などと話してくれた。

今回植えた苗は10月ごろに刈り入れ、約120キロのもち米となり、各学校で餅つきや給食で味わう予定。



本物の田んぼで
田植えを体験！

【当日の様子】

見事に晴れ渡った青空の下、元気いっぱいの児童たちが水田の前に集合した。

まず、区職員が水田に入り、苗の持ち方から植え方まで田植えの手順を説明。その間、児童達はそれぞれ、早く水田に入りたい様子で話を聞いていた。

一通り説明が終わると、7、8人の児童が一人4、5株の苗を持ち、水田の中で一列に並んだ。足跡でくぼんだ場所の泥を平らにならしながら、等間隔に植えられるように張られたロープ沿いに慣れない手つきで苗を植え付けていった。

体験を終えた光が丘秋の陽小の男子児童は「初めて田植えをしました。簡単にできると思っていたけれど、苗がうまく入らなくて難しかったです。お米をつくる大変さがわかりました。秋の稲刈りと収穫祭が楽しみです。」と感想を話してくれた。

【今後の予定】

今後は、区東部公園管理事務所が水田を管理する。苗は順調に生育すると9月下旬から10月初旬に稲刈りの時期を迎え、約120キロのもち米が収穫できる予定。そして、学校で餅つき大会や給食の材料に使用するという。ちなみに、去年は約123キロのもち米を収穫した。

東部公園管理事務所は、「児童達に田植えを体験してもらい、毎日のように食べているお米のありがたみを感じてもらえれば」と話している。

【会場・参加児童数について】

「田んぼのある公園」として親しまれている区立秋の陽公園（面積約18,200㎡）は、昭和初期の豊かな水田の広がる生活風景をイメージして作られた。あぜ道によって6面に分けている約500㎡の水田や、農家の長屋門を模した正面入口などが特徴。苗の種類は「マンゲツモチ」という種類のもち米。

今年の田植えは、区立小学校5校の5年生が参加。14日は光が丘秋の陽小70人、光が丘第八小40人、光が丘四季の香小91人が体験した。明日15日は、光が丘夏の雲小94人と光が丘春の風小78人が体験する予定で、両日合わせて373人の児童が田植えを体験する。

【問い合わせ】 東部公園管理事務所 電話03-3994-8141